

## 第1回国際刑事裁判所研修中間報告

(報告期間 2018年1月8日～3月4日)

### 基本情報

派遣クラブ：広島東南ロータリークラブ

カウンセラー：中村 伸弘 氏

支援クラブ：尾道ロータリークラブ

国際ロータリー第2710地区

2016-17年度グローバル補助金奨学生

ロータリー財団学友

西山秀平

報告書提出日：2018年3月5日

## オランダでの年越し

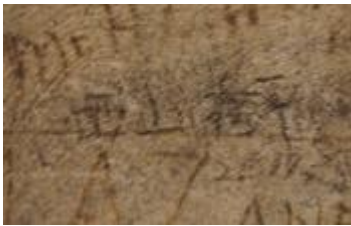
年の瀬真っ只中のクリスマスに離日し、翌 26 日にオランダに到着しました。ちょうどその日はボクシング・デーという祝日で街は静かでした。また、1 年間住んだ街ですので、ああ帰ってきたんだなあという気持ちになりました。年越しまでは友人の家に居候させてもらい、時差ボケを治すのと、まだオランダに残っているクラスメートとの再会を楽しみました。オランダの年越しカウントダウンは花火や爆竹とともに行われます。その日のみは一般人にも火薬の売買が許可され、普段は儉約家として有名なオランダ人ですが、財布の紐が大いに緩み、花火や爆竹を大量に購入し、一晩中打ち上げ続けます。日本での厳かな年越しとは非常に対照的だと思います。(これは西洋全般に言える事かもしれませんが。)

年明け早々は新居に移転した後、ハーグの海岸で行われているという、寒中水泳を見物しに行きました。もちろん泳いでいませんが。(写真参照) どのような理由でこの風習が始まったのかはわかりませんが、日本でも新年の寒中水泳があるようにここでも文化的な共通点があるのかなと考えさせられました。



## 卒業式の続き

1 年間の往復航空券の制約の都合で最後まで出席することの叶わなかった卒業式の続きを年明けに行って参りました。ライデン大学の卒業式は少し変わっていて、学位の授与の後、卒業生は大学の創立当初の建物の中の一室にある部屋の壁に自分の名前を書き込むのが伝統となっています。教授の方のご厚意で特別に中に入れてもらい、無事に自分の名前を書き込み、無事にやり残した卒業式の最後をやり遂げることができました。



### 国際刑事裁判所について

国際刑事裁判所はハーグの街の少し外れ、海岸付近にオフィスを構えています。（写真参照）晴れているとビルの青色の窓と空のコントラストが綺麗です。各棟は部署ごとに分けられていて、裁判の公平性の確保という観点から、自身の所属する棟以外へのアクセスは禁じられています。

国際刑事裁判所は裁判部、検察部、書記局の3部構成で、戦争犯罪、人道に対する罪、虐殺罪という国際的な重大犯罪を裁いています。この7月からは新たに平和に対する罪（侵略犯罪）も追加されます。

現在は、10カ国の事象が捜査前段階で、11件の事象が捜査中、24件の事件が係争中です。（2018年3月段階）



### インターンとしての業務

私は裁判部の上訴裁判部という部署に配属されました。裁判部は参審制で、予審裁判部、本審裁判部、上訴裁判部で構成されています。各部署の構成とし

ては、まず一番上に判事が6名おり、その下に法務官が配置され、その補佐の法務官がおり、さらにその下にインターンが配属されるという形になっています。私は、ポーランド人の判事についています。現在インターンと人材交流で来られている他国の法律家を合わせて約10名が同じポストに配属されています。

日常業務としては、上司にあたる法務官から与えられたリサーチを行ったり、判決文やその脚注に誤りがないかという確認を行っています。地味な仕事が多いですが、判決文を下すという、裁判所にとって最も重要な業務の一部を担えているという実感があるのでそういった意味での充実感があります。詳しい内容は情報解禁までもうしばらくお待ちください。

職場の環境という点についても、これまでは日本の職場であったり、上司にあたるポジションの所に日本人もしくは日本語の通じる方がいたのですが、当然の事ながら、今回は全てを英語でやっていかなければならないので全く甘えのない環境に身を置くことになっています。正規職員に関しても母語が英語とは限らないので、そういった上司とのコミュニケーションの取り方という点でも苦労しています。また、人間関係という部分でも（これは国際機関に限ったことではないかもしれませんが）、新参者としてうまくその輪の中に入っていくながら、言葉として表面には出てきていない雰囲気を読み取りながらやっていくことの大事さというものをひしひしと実感しています。国際機関はそういった点でもう少しダイレクトだったりするのかなと思っていたのですが、育ってきた文化的な背景の違いがより濃く出ていて、場の空気を読みながら、人間関係を察しながらやっていくスキルは必須だと思いました。逆に、できるだけ相手に不快感を与えず、気持ちよく仕事をしていくというのが、日本人として育ってきた自分自身の武器にしていくことができるのではないかと感じています。

また、いくつかの事件が最終局面を迎えており、裁判部の中は殺伐としており、数年の中で最も忙しいと思われる時期の働き方や、どのように仕上げていくのかという非常にスキルの問われる過程を目の当たりにできているので、大いに勉強になっています。

#### インターン外の活動について

- Green Legacy Hiroshima の活動について

私自身の参加は叶わなかったのですが、12月の下旬に平和宮における植樹を

行いました。なかなか部外者の平和宮への立ち入りが許可されず、私自身はまだ目にする事ができておりませんが、その際にはまた改めて写真を共有させていただければと思っております。

インターン開始前に一度ライデン大学の植物園を訪れ、苗木たちが無事に成長しているのを確認することができ、一安心するとともに、植物園の方々が非常に大切に管理をしてくださっていることに感激しました。(写真参照) 植物園やライデンの自治体が主になって、オランダの各地方自治体に対して植樹を行うおうという動きも出てきているようです。

私の方も、国際刑事裁判所における植樹の実現に向けて可能性を探っているところです。裁判所に参加している国々との調整も必要になるようで、難航する可能性があるかもしれませんが、できる限りのことはやって見ようと思っております。



#### ● インターン以外の過ごし方

大学院で1年間既に過ごしてきたオランダですが、住んでいた場所の近辺と大学と図書館の往復で1年が経過してしまったことを自覚していたので、オランダのなかなか観光では訪れないような街やローカルな美術館を探訪して回ることにしています。その時に役に立っているのが、オランダのほぼ全ての美術館に入場が可能となる、ミュージアムカードと休祝日の電車が乗り放題になる国鉄の定額プランです。それらを駆使して、休日のオランダ地方都市巡りを満喫しています。

また、裁判所にあるバスケットボールのチームにも所属させてもらっており、週に2回バスケットボールをしています。スポーツを通じて、インターンの業務では関わる事のない他部署の方々や、ハーグにある他の国際機関の職員の方々とも交流を持つことができるので、運動するという事以上の楽しさを得ることができています。

それらに加えて、不定期ですが、部署の方の誕生日の際には部署の人たちで休

日にランチを食べに行ったりと職場の外でも親交を深めることができています。（写真は先月同僚の誕生日ランチをした時のものです。）



### インターン後半に向けて

今週末で現判事の3分の1の方々の任期が切れ、新しい判事の方々が来られます。それに伴い、部署の構成も変わることが予想されます。こうした転換期にちょうど内部に居られるというのはなかなかない経験だと思いますので、それを大きな糧にしていきたいと思います。2ヶ月経ち、課される業務にも少しずつ慣れ、また上記の任期切れに伴い、大多数の同じポジションの同僚が来月初旬までには居なくなるので自分に課される業務の内容も量も増えてくることが予想されるので、いい意味で様々な業務を任せられ、経験値を増やしていければと、意気込んでいるところです。

それと同時進行で、このインターンが終わった後の進路についても上司の方々に相談するなどして色々と模索していこうと思っています。